「折れ線グラフの書き方」
折れ線グラフの特徴と違いの表し方を解説

折れ線グラフの書き方

時間や日にちとともに変わるものを表すときに便利なグラフが折れ線グラフだったよね。
今回は折れ線グラフの書き方を勉強していこう。

折れ線グラフの書くポイントは次の２つ。

①点を書いて
②線で結ぶ

たった２つだけで書けちゃうから、折れ線グラフの書き方はすごくかんたんなんだ。
もしかしたら、「ぼうグラフよりかんたんだな」と思う人もいるかもね。

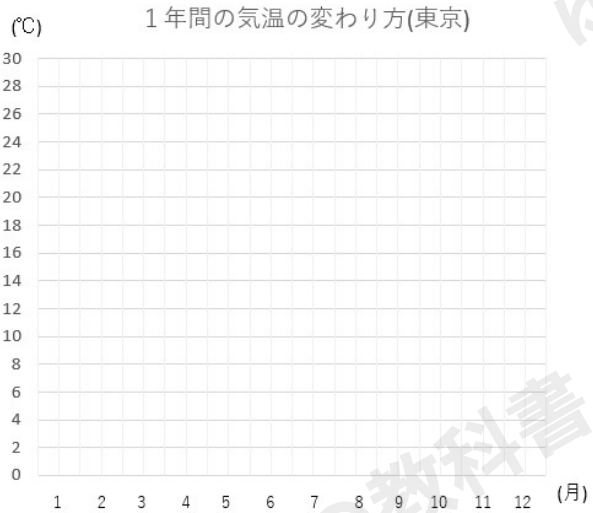
では、問題をときながらチャレンジしてみよう。

下の表は１年間の東京の気温の変わり方を表しています。
折れ線グラフを書きなさい。

１年間の気温の変わり方(東京)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気温(℃)	10	12	16	18	26	28	28	26	26	22	16	12

© ゆみねこの教科書



①点を書く

表を左から順番に見ていくよ。
１月の気温は１０℃だとわかるね。

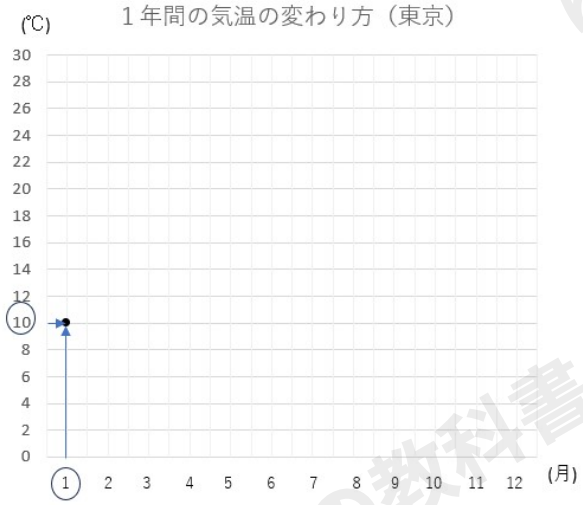
１年間の気温の変わり方

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気温(℃)	10	12	16	18	26	28	28	26	26	22	16	12

グラフは、横じくが「月」、たてじくが「温度」をあらわしているね。
なので、グラフの横じくから「１月」、縦しくから「１０℃」を見つけよう。

あとは、「１月」から上にむかう矢印、「１０℃」から右にむかう矢印をイメージして、それぞれの矢印がぶつかったところに点を書こう（じっさいに矢印を書いた人は消しておこう）。

© ゆみねこの教科書



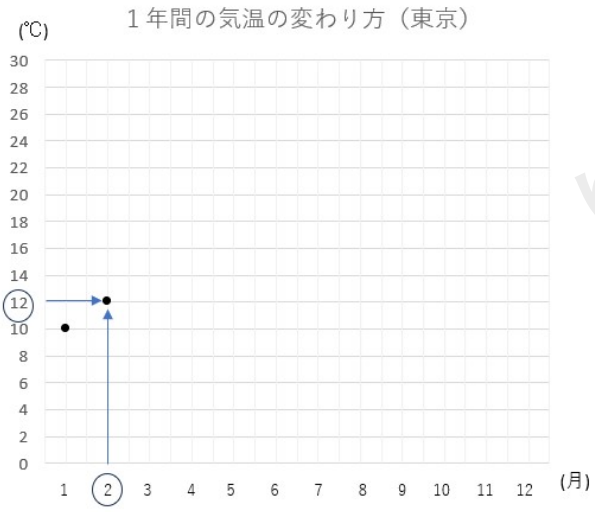
次に、表を見ると２月の気温は１２℃だとわかるね。

１年間の気温の変わり方

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気温(℃)	10	12	16	18	26	28	28	26	26	22	16	12

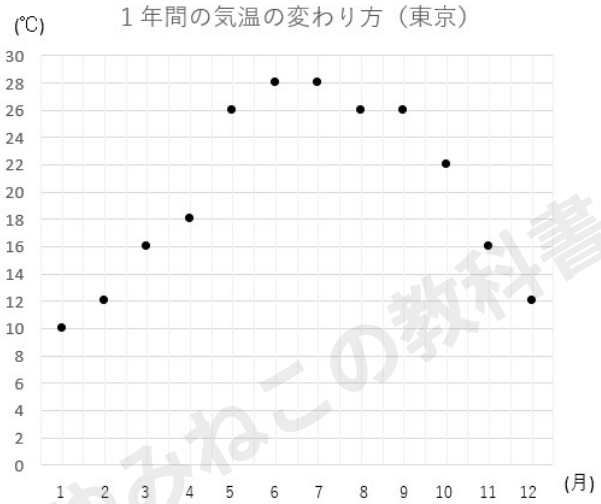
なので、グラフの横じくの「２月」とたてじくの「１２℃」を見つけよう。

あとは、「２月」から上むきの矢印、「１２℃」から右むきの矢印を
イメージして、それぞれがぶつかったところに点を書こう。



© ゆみねこの教科書

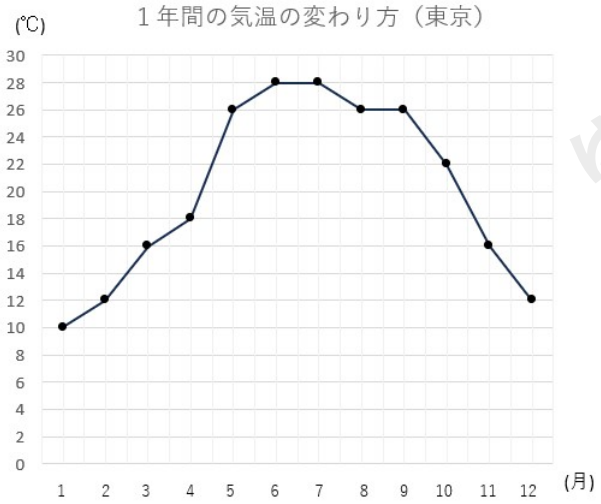
ここまでで１月と２月の気温の点を書くことができたね。
あとは３月から１２月も同じように点を書いていくと次のようになるよ。



点を書きまちがえないようにしようね。
これで、すべての点を書くことができたね。

②線で結ぶ

さっき書いた点と点を、定ぎを使って線で結ぼう。



© ゆみねこの教科書

これで、折れ線グラフの完成。
どうだったかな？

折れ線グラフを書くポイントは
　①点を書いて
　②線で結ぶ
ということを覚えておこう。

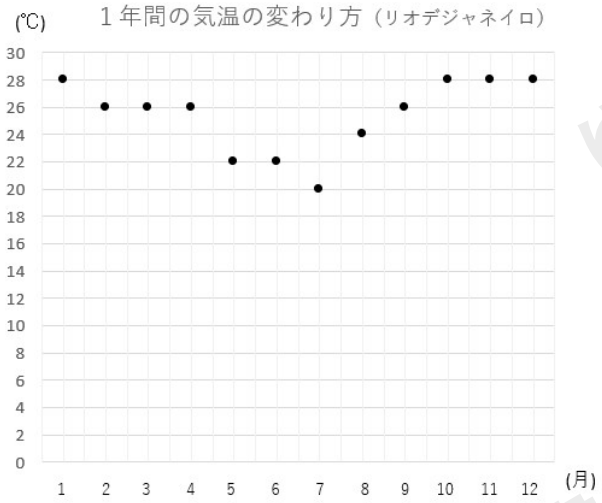
下の表はブラジルにあるリオデジャネイロという町の１年間の気温の変わり方を表しています。折れ線グラフを書きなさい。

１年間の気温の変わり方(リオデジャネイロ)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気温(℃)	28	26	26	26	22	22	20	24	26	28	28	28

①点を書く

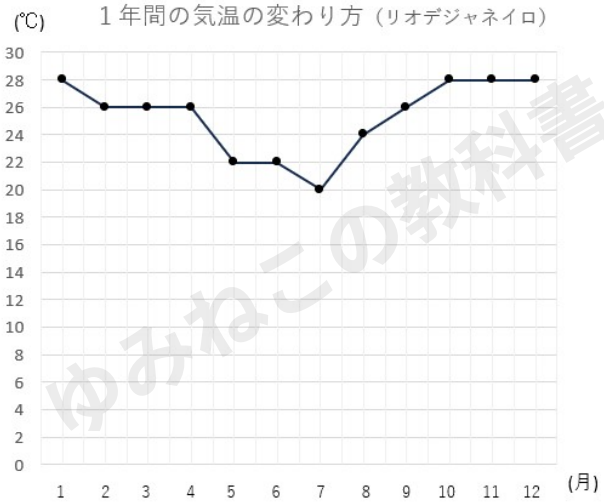
リオデジャネイロの気温は１月に２８℃、２月に２６℃という感じで、１２月まで点を書いていくと次のようになるよ。



© ゆみねこの教科書

②線で結ぶ

書いた点と点を線で結ぶと次のようになるよ。
東京よりも暑いということがよくわかるね。



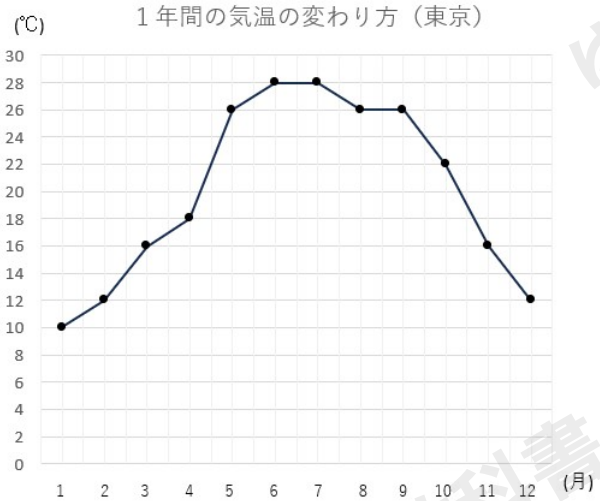
折れ線グラフを使って、ちがいをわかりやすく表そう

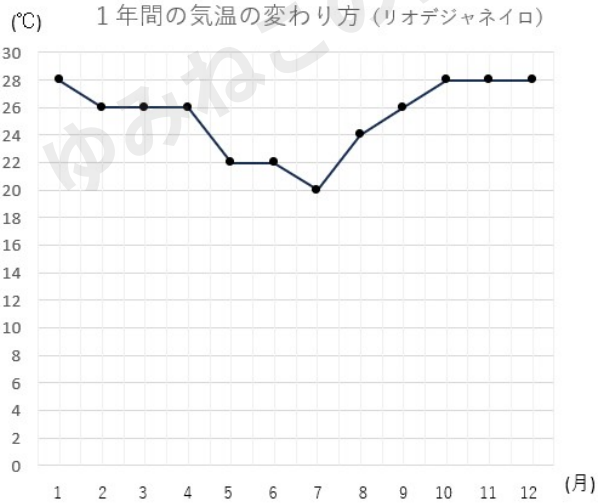
東京とリオデジャネイロの１年間の気温の変わり方をそれぞれ折れ線グラフにしてみたね。

それぞれの折れ線グラフをくらべてみて、なんとなく「東京よりもリオデジャネイロの方が暑そうだな」ということがわかったね。

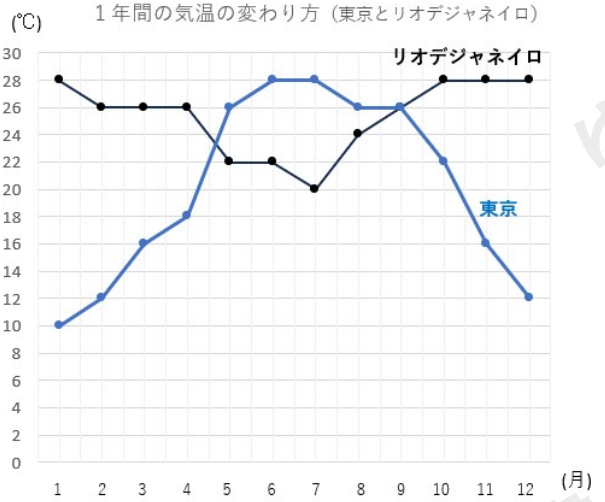
このように折れ線グラフを使うと、データごとの「ちがい」がわかりやすくなるんだ。
もういちど、さっきの東京とリオデジャネイロの折れ線グラフを見てみよう。

© ゆみねこの教科書





バラバラに見ても気温のちがいはなんとなくわかるけれど、データどうしを比べるときは、２つのグラフを重ねるとすごくわかりやすくなるよ。



© ゆみねこの教科書

グラフを重ねると、どれがどれだかわからなくなってしまうので、折れ線グラフが何本かあるときは、どの線が何を表しているのか分かるように、グラフの色を変えたり、どのグラフが何をあらわしているのかがわかるように必ず説明を書こう。

２つのグラフを重ねてみると、気温がぜんぜんちがうことや、どんなところがちがうのかがよりわかりやすくなるね。

２つのグラフを見て、気づいたことをまとめてみたよ。

東京とリオデジャネイロの気温を見て気づいたこと

・１年間をとおして見ると、リオデジャネイロは気温が高い月が多い
・東京は２０℃にならない月がある
・５～９月では東京は気温が高く、リオデジャネイロは気温が低い
・１０月から４月では東京は気温が低く、リオデジャネイロは気温が高い

今回は２つの折れ線グラフを書いて、２つのグラフ（東京とリオデジャネイロの気温）をくらべたけれど、３つ、４つのグラフをくらべることもあるよ。

折れ線グラフを使うと、たくさんのグラフをくらべやすくなるんだ。

折れ線グラフの特ちょう

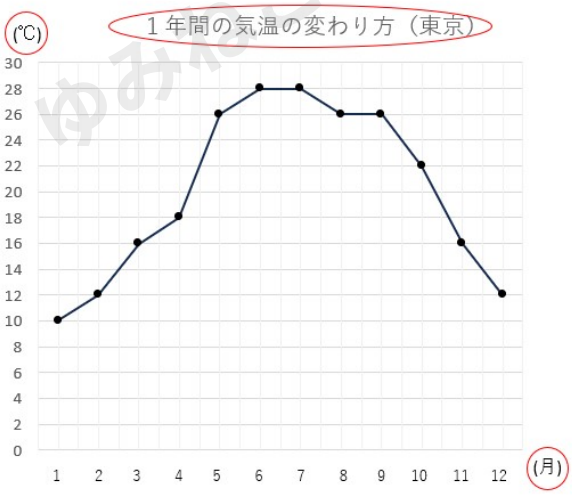
折れ線グラフにはどういう特ちょうがあるのかな？
折れ線グラフの特ちょうを見ていこう。

© ゆみねこの教科書

折れ線グラフの特ちょう①「タイトルと単位が必要」

ぼうグラフでも同じだけれど、折れ線グラフの上には、必ずタイトルが必要なんだ。
これがないと何を表しているかがわからないからね。

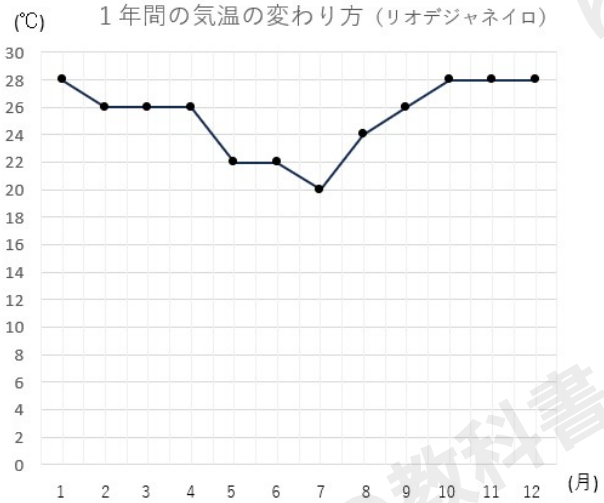
それと、横じくとたてじくの単位を書こう。
これがないと、横じくとたてじくが何の数字なのかがわからないことがあるよ。



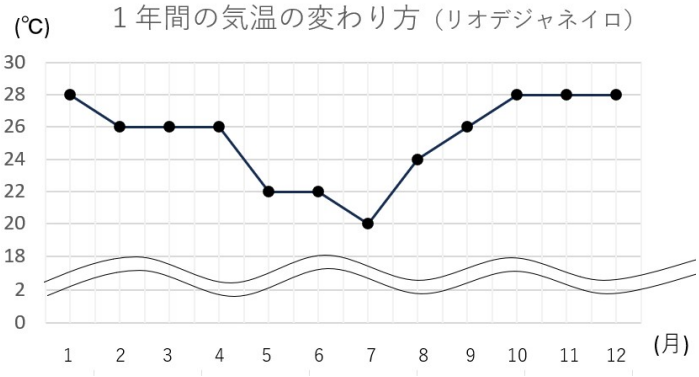
折れ線グラフの特ちょう②「省りゃくの記号を使う」

さっきのリオデジャネイロのグラフを見てみよう。
リオデジャネイロは１年中暑い月が多く、どんなに低いときでも２０℃以上だよね。
そう考えると、「０～１９℃」までの部分がもったいないような気がするし、グラフが上の方にかたよりすぎてしまって、どの点がどの「月」なのかが遠くてわかりづらいよね。

© ゆみねこの教科書



「０」と折れ線グラフの間が開きすぎて見にくくなる場合は、
次のように「二重波線（にじゅうなみせん）」で省りゃくして書くことがあるよ。



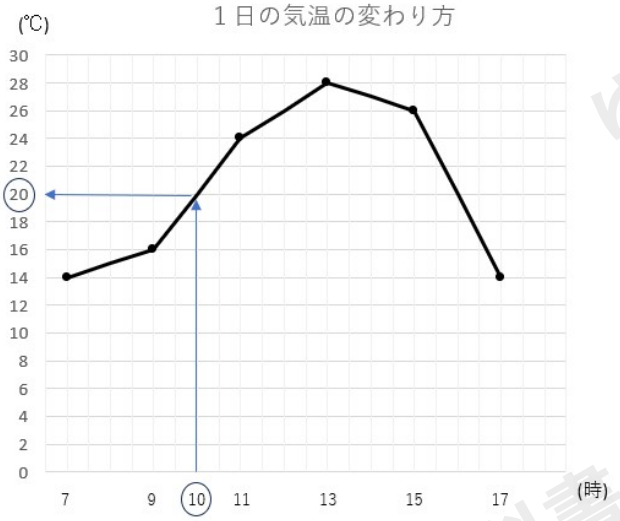
気温が「２℃」の次は「１８℃」になっていて、その間がとんでいるよね。
つまり、「２℃」から「１８℃」のところを省りゃくしているよという意味だよ。

© ゆみねこの教科書

折れ線グラフの特ちょう③「点と点のあいだは正かくではない」

１日の気温の変わり方を表した折れ線グラフを見てみよう。
７時は１４℃、
９時は１６℃、
１１時は２４℃、
１３時は２８℃、
１５時は２６℃、
１７時は１４℃
になっていることがわかるね。

じゃあ、「１０時」は何℃になっているかわかるかな？



© ゆみねこの教科書

グラフを見て、「２０℃だ」と思った人もいるんじゃないかな？
でも、実は１０月の「２０℃」というのは正かくな数字ではないんだ。

折れ線グラフは点が書いてあるところだけが正かくな数字になるんだ。
だから、１０時のとき、２０℃あたりにグラフがあるからって、
必ず「２０℃」にはならないんだよ。

少しむずかしかったと思うけれど、これだけは覚えておこう。

折れ線グラフの特ちょう

・点と点のあいだは、かならず正しいとはいえない。
・正しい数字は、点を書いたところだけ。

「折れ線グラフの書き方」まとめ

・折れ線グラフは、点を書いて、点を線で結んで書く
・折れ線グラフを重ねることで、データごとの変わり方のちがいが
　わかりやすくなる
・グラフにはタイトルとたてじくと横じくの単位を必ずつける
・省りゃくの記号「二重波線」を使うこともある
・点と点のあいだは、かならず正しいとはいえない
・正しい数字は、点を書いたところだけ

© ゆみねこの教科書